

日高医療センターのあり方検討委員会での検討内容と方向性に関して寄せられた主な意見・要望

(第3回委員会で整理された方向性について、組合議会、住民、職員に対し説明し寄せられた意見・要望)

主要な意見・要望	これまでに議論された検討委員会の考え方等	意見・要望を踏まえた対応案	
1) 入院機能に関すること			
① 入院機能を廃止しないで欲しい。	医師不足により、現在、内科医師3名で、入院だけでなく外来や透析、健診センターなどの運営を行っており、まずはこの厳しい勤務環境を改善する必要がある。少ない医師数で日高MCと出石MCにそれぞれ入院機能を持つよりも、1箇所を集約した方が将来を含めた医療機能の向上や医師の負担軽減につながると考えられる。豊岡市域の3病院が役割分担し、限られた医療資源を有効活用することで、この地域に質の高い医療を継続的に提供していくことが目的である。なお、現在地で診療を継続しながら病棟を確保するのは面積的にも難しい。	◎小規模(有床診療所)で入院機能を日高MCに残すこと ⇒小規模化したとしても医師の入院に必要な体制(当直等)は同じであり、集約化した方が豊岡市域の入院機能を高めることができるため原案どおりとする。 ※入院機能廃止の影響に係る参考資料： 別紙「日高MC入院患者の状況」	
② 小規模(有床診療所)でも入院機能を残すことは出来ないのか。			
③ 豊岡病院の治療適応外患者(高度急性期では無いが入院が必要な患者)の受け入れ先がなくなるのではないのか。			-
④ 日高MCの入院が無くなる分、出石MCの病床数を増やすのか。			-
⑤ 自宅の介護体制に問題があり入院せざるを得ない方が多い中で、入院機能を無くせば入院出来なくなる患者が増えるのではないのか。			社会的入院が問題となる中で、医療が必要無く介護が必要な患者については福祉及び介護と連携し対応することになる。医療が必要な患者については出石MCで受け入れるので、入院できない患者が増えることはない。なお、現状においても病床利用率は低く、入院の必要な患者は受け入れている。
2) 外来機能に関すること			
① 日高町内には整形・眼科の開業医も無く、日高MC頼り。外来が小さくならないようにして欲しい。	委員会では医師の負担軽減等のため入院機能は集約する一方で利用頻度の高い外来機能については充実させる方向を示している。	-	
② 専門外来とはどのような診療科が増えるのか。	委員会では豊岡病院との連携による外来の充実を提案している。具体的な診療科は日高での医療の状況や豊岡病院の医師体制を勘案して検討されたい。	-	
③ 専門外来のメリットとして、豊岡病院の紹介率アップや外来の混雑緩和、交通弱者に対する需要喚起などが挙げられる。日高MCの外来と捉えず、豊岡病院の外来出張所と捉えるべき。	委員会では豊岡病院の紹介・救急重点化、外来機能分化の受け皿として、豊岡病院との連携による日高MCへの専門外来設置の方向性を示している。豊岡病院、日高MC、出石MCの3病院が連携する中で、日高MCにおいて専門外来を充実させ、豊岡市域全体の医療機能の向上を目指すものである。	-	
④ 医師不足の中、どうやって外来を充実させるのか。	病棟機能を廃止することにより、外来・在宅医療の充実にシフトさせる。	-	
⑤ 一般的な外来診療に加えて看護師主体の専門外来(糖尿病、フットケア、腎不全、認知症など)を行いたい。	-	◎看護師主体の専門外来 ⇒必要な取り組みであり、新日高MCの外来機能の付加価値として今後当局で検討されたい。	
3) 眼科機能に関すること			
① 眼科機能の移転場所、手術室の対応方法はどのようになるのか。	委員会では豊岡病院と出石MCの土地利用状況や急性期・回復期の機能分担の観点から、豊岡病院への眼科機能移転の方向性を示した。具体的方法については基本計画の中で検討されたい。	-	
② 日高MCの特徴として眼科機能が定着している。豊岡病院への機能移転は患者に混乱を与える。	豊岡病院へ機能移転する方が他科と連携した質の高い医療が提供できることから、患者にとってもメリットが大きい。また、現地での建替えは面積的にも厳しい。	◎機能移転に伴う患者の混乱 ⇒眼科機能の移転前には十分に広報を行い混乱が生じないように努める必要があるとの意見を追記する。	
③ 眼科開業医が無い日高町では眼科の外来診療が必要ではないか。豊岡病院へ集約すれば通院困難患者が増えるのではないのか。	機能分担の中で現状でも開業医からの紹介患者のみを診ている状況である。また、眼科の市町別患者数を見ると日高町に限らず、但馬全域から患者が来ている状況である。市全体の観点から豊岡病院に移転することとなるが、市民の協力が必要である。	-	
④ 眼科入院は豊岡病院の既存病棟で受け入れるのか。	眼科患者数はH27実績で17人/日。さらに白内障手術の一部を外来化すればさらに患者数が減るため既存病棟で十分受入可能と考える。	-	
⑤ 眼科機能の移転によって、豊岡病院の駐車場不足が懸念されるがどのように対応するのか。	豊岡病院では豊岡インターチェンジ取付道路整備に合わせ駐車場の拡張が検討されている。	-	

日高医療センターのあり方検討委員会での検討内容と方向性に関して寄せられた主な意見・要望

(第3回委員会で整理された方向性について、組合議会、住民、職員に対し説明し寄せられた意見・要望)

主要な意見・要望	これまでに議論された検討委員会の考え方等	意見・要望を踏まえた対応案
4) リハビリテーションに関すること		
① 介護保険の通所リハは、入浴・昼食・レクレーション・送迎等のデイサービスを兼ねた方が利用者増につながるのではないかと。	高齢者の増加とともに、医療保険で給付される限度日数を超えて長期間リハビリが必要な患者の増加を見込んでいる。地域包括ケアシステムの要として、限度日数に制限の無い介護保険の通所リハビリを実施するという方向性を示している。	-
② 訪問リハの拡大とともに、透析や健診を含めた生活習慣病管理の充実が必要ではないかと。	委員会では新日高MCの機能として、住民健診や人間ドックなどの健康診断とともに生活習慣や病歴の応じた保健指導が必要との方向性を示している。	-
③ リハは入院が無くなる日高MCよりも出石MCを充実させる必要があるのではないかと。	委員会では、手術後等の急性期入院医療で提供されるリハは豊岡病院、その後回復期や慢性期へ移行した通院・通所リハは住民に近い位置で提供することから、日高MCや出石MCも含め豊岡市域の3病院で機能分担して実施する方向性を示した。	◎入院機能がなくなる日高MCへのリハ充実 ⇒原案のように3病院の機能分担・連携について当局で具体的に検討されたい。
5) 在宅医療に関すること		
① 医師不足の中で在宅医療(訪問診療)やターミナルケアに従事する医師はどう確保するのか。	日高MCで提供する在宅医療は、主として開業医との連携・協業による訪問看護及び訪問リハ事業の実施で、医師が行う訪問診療はかかりつけ医の後方支援という方向性を示している。なお、医師確保が厳しい中で、現行の医師体制を前提として検討している。	-
② 「施設から在宅へ」とのことだがその連携基盤は出来ているのか。自宅で介護することが厳しい状況でも入院出来ないため仕方なく連れて帰るといったことにならないか。	国の社会保障制度改革が進行しており、今後は地域包括ケアシステムの構築が急務である。県や豊岡市と連携しながら医療・介護・福祉のネットワークの一員として、積極的に関わりながら連携基盤を作り受入先を整備する必要があるとして方向性を示した。	-
③ 在宅透析も検討して欲しい。医師の負担軽減や遠方からの通院困難患者の利便性向上につながる。	-	◎在宅透析 ⇒将来需要や費用対効果等を踏まえ当局において判断されたい。
6) 健診・保健指導に関すること		
① 今後の医師体制や将来需要を考えると日高MCでは無く豊岡病院に集約すべきではないかと。	委員会では優先するとして「地域包括ケアシステムの医療機能」との相乗効果や現地建替による制約などを考慮して、日高MCの既存機能の中から健診・保健指導機能を日高MCに残す方向性を示した。豊岡病院への整備についての検討は行っていない。	◎健診・人間ドック・保健指導を豊岡病院に集約 ⇒全ての機能を豊岡病院に集約するのではなく、豊岡市域3病院の連携により必要な医療を確保することが重要であること、敷地の制約もあることなどから原案どおりとする。
② 栄養食事指導に力を入れ、生活習慣病の改善・疾病の重症化を防ぐ。	-	◎栄養指導の重点化 ⇒必要な取り組みであり、新日高MCの在宅機能の付加価値として今後当局で検討されたい。
7) 人工透析に関すること		
① 透析患者には糖尿病の合併症を抱える方が多く、急な入院が必要となる場合がある。入院機能が無いと受け入れが不安である。	委員会では、現状の患者数(1.4人/日)や優先整備する地域包括ケアシステムとの関係が薄いことなどから、豊岡病院及び八鹿病院での患者受入という方向性を示している。現状においても急変の可能性のある患者は豊岡病院等に搬送している。	-
② 新日高MCの診療が開始する頃には、現在の透析担当医が定年退職を迎える。日高で医師の安定確保が難しいのであれば、豊岡病院の腎臓内科の体制を整え、そこから派遣を受けるやり方が良いのではないかと。あるいは、豊岡病院に透析機能を移転させる方が良いのではないかと。	委員会では優先するとして「地域包括ケアシステムの医療機能」との相乗効果や現地建替による制約などを考慮して、日高MCの既存機能の中から外来人工透析を日高MCに残す方向性を示した。豊岡病院への整備についての検討は行っていない。	◎外来人工透析を豊岡病院に集約 ⇒全ての機能を豊岡病院に集約するのではなく、豊岡市域3病院の連携により必要な医療を確保することが重要であること、敷地の制約もあることなどから原案どおりとする。
③ 近隣に出来た送迎サービス付きの他施設に患者が流出している。透析患者送迎サービスを検討してはどうか。	-	◎透析患者送迎サービス ⇒将来需要や費用対効果等を踏まえ当局において判断されたい。

日高医療センターのあり方検討委員会での検討内容と方向性に関して寄せられた主な意見・要望

（第3回委員会で整理された方向性について、組合議会、住民、職員に対し説明し寄せられた意見・要望）

主要な意見・要望	これまでに議論された検討委員会の考え方等	意見・要望を踏まえた対応案
8) 身分保障に関すること		
① 入院機能の廃止に伴う異動において、離職につながらないように進めて欲しい。	-	-
② 臨時職員の雇用をもっと考えるべきではないか。雇用の無い時期に切り捨てるようなことはしてはいけない。	-	-
9) 立地・アクセスに関すること		
① 既存の療養病棟と健診センター棟を残すと敷地の両端となり、業務動線や患者移動などが非効率な建物となることが予測されること、工費や工事騒音、駐車場対応を考えると別の場所に全て建て替える方が良いのではないかと。	委員会では、患者・利用者・職員の通院利便性、町の活性化の観点から江原駅周辺での整備が良いが、適地が無いことや用地買収コスト・選定に要する時間などから現地での建て替えが適切とした。また、築年数が浅い施設の活用が見込まれ、建築コストが少なく済むこともメリットである。	◎別の場所に全て建て替えた方が良いのではないかと ⇒原案どおりとする。
② 車が無い患者さんのためにも駅周辺が望ましい。	利便性に優れている現地での建て替えが望ましい。	-
③ 日高～出石間、日高～豊岡間のアクセス改善と病院へ低コストで通院できる交通手段が必要ではないか。	委員会では、高齢化に伴う交通弱者の増加を考慮し、検討に当たっては利用頻度の高い機能は近くに残し、そうでない機能は集約する方向性を示した。詳細検討に当たっては、公共交通機関の充実も併せて検討されたい。	◎日高～出石間、日高～豊岡間のアクセス改善 ⇒詳細検討に当たっては公共交通機関の充実も併せて検討されたいとする内容を追記する。
10) その他		
① 新たなサービス展開を行うことになる。早い段階から研修を行い知識・技術の習得に努める必要がある。	委員会でも同様の意見が出されている。	-
② 地震等の災害はいつ起こるか分からないため、1日でも早く安全性の高い建物にして欲しい。	早期の建て替えを目指しているが、他方で住民への説明や合意も必要である。	-
③ 再編することで経営状況は良くなるのか。経営状況が悪い中で更に大きな投資を行って大丈夫なのか。	日高MCの赤字の要因として入院部門の非効率性が挙げられる。出石MCへ集約することで病床利用率を上げるとともに効率的な運用体制の構築が可能と考えられる。3病院がそれぞれ役割分担・連携することで質の高い医療を提供し、効率的で持続可能な経営ができると考えている。	-
④ 医師確保で確実なものはあるのか。	全ての地方病院が苦勞しており確実な方法は残念ながら無く、今後も厳しい状況が続くことを前提とした方向性である。	-
⑤ 豊岡病院外来の混雑を解消してほしい。	委員会では、豊岡病院の紹介・救急重点化、外来機能分化の受け皿として、日高MCに専門外来を整備する方向性を示している。こうした取り組みにより、豊岡病院の混雑解消に寄与できると考えている。	-
⑥ 経営効率だけを考えれば日高MCを廃止してしまうべきである。	経営効率化も重要な課題ではあるが、他方で公立病院として一定の医療へのアクセス確保についても配慮が求められており、両面から検討した結果の方向性である。	-
⑦ 住民理解を求め合意の下で計画を進めるべきである。	委員会でも、現状の厳しい医療環境について、住民に十分説明し理解を得た上で進める必要があるとの意見が出された。	-